

3人に1人が「採用後、1年以内に離職」

上越市が介護労働実態調査結果概要を発表

市議会厚生常任委員会（矢野学委員長）で10日、「介護労働実態調査」の報告が行われました。この調査は財団法人介護労働安定センターによる全国調査に準ずる形で上越市が独自にすすめてきたものです。市町村での独自調査はめずらしく、県内では初の調査結果発表となりました。

今回の調査の対象となったのは、市内で介護保険サービス事業を運営する77事業者と市が抽出した介護サービスに所属する介護労働者（各事業所につき3人、合計288人）です。調査はアンケート方式で行われ、回収率は事業者、労働者どちらも68%台でした。

主な調査結果をお知らせします。介護職員の正社員で離職した人の勤務年数は、「採用後1

年未満」が31.9%、「採用後1年以上3年未満」が45.7%。全国調査結果よりも「採用後1年未満」は少なかったものの、「採用後1年以上3年未満」が全国よりも大きく上回りました。介護労働者の平均月収は18万8500円（全国平均は17万9000円）でした。「仕事の内容のわりに賃金が低い」と回答した人は全国平均よりも10%ほど高い58.2%にもなりました。

厚生常任委員会で調査結果の概要について報告したのは市役所の馬場介護保険課長です。財団法人介護労働安定センターによる全国調査の結果と比較した数値を言うたびに傍聴している議員席から「ウワーツ」という声があがりました。馬場課長は報告の最

後に、「調査結果を分析して取りくむべき課題を整理していきたい」とのべました。今回の調査結果は上越市のホームページなどで報告書全文が公開されます。早ければ3月下旬、遅くとも4月上旬には公表するとのこと。

今回の調査の契機となったのは私の一般質問です。一昨年の12月議会で木浦市長は、「介護労働安定センターが実施されました実態調査項目を参考にしながら、介護保険法で指定された市内の介護サービス事業所を対象とした実態調査の実施について前向きに検討させていただきたい」と約束していました。

25日に一般質問で登壇

3月定例市議会は常任委員会審査も終盤を迎え、18日から一般質問に入ります。

私は毎回質問を続けていますが、今回は高田平野の活断層問題、信濃町の廃棄物最終処分場、地域自治区の課題などをとりあげます。

一般質問は通告制で、私は30番目となりました。いまのところ、25日の午前に登壇の予定です。上越ケーブルテレビで中継されますのでごらんください。再放送もあります。

左の写真はヒメオドリコソウ。吉川区中谷内にて8日撮影。

職種別就業形態 ()内の数値はいずれも全国調査結果

	正社員	非正社員
訪問介護員の就業形態	33.3% (17.9%)	66.7% (81.4%)
介護職員の就業形態	62.7% (56.5%)	37.3% (42.8%)

介護職員の正社員で離職した人の勤務年数

採用後、1年未満に離職 31.9% (34.6%)	採用後、1年以上3年未満に離職 45.7% (39.0%)
------------------------------	----------------------------------

働く上での悩み、不安、不満等（職種全体）

仕事の内容のわりに賃金が低い	58.2% (49.4%)
精神的にきつい	40.8% (35.7%)
休暇が少ない・休暇が取りにくい	36.7% (30.6%)
業務に対する社会的評価が低い	36.7% (38.4%)

賃金や手当等への希望

賃金・手当を上げて欲しい	60.2% (全国調査では項目なし)
能力を評価して欲しい	26.5% (35.0%)
資格による手当が欲しい	26.0% (27.0%)

過去1年間（07年12月1日～08年11月30日）のヒヤリ・ハット

あった	66.3% (51.8%)	なかった	33.2% (44.9%)
※ ヒヤリ・ハット…結果として事故は発生しなかったが、危うく事故が発生しそうになった状況			

現在の仕事の満足度

	満足	やや満足	普通	やや不満足	不満足
仕事の内容・やりがい	20.4%	33.8%	32.1%	9.7%	2.0%
賃金	4.6%	8.7%	24.5%	36.2%	24.0%
労働時間・休日等の労働条件	12.2%	19.4%	34.8%	22.4%	9.7%
人事評価・処遇のあり方	7.1%	9.7%	40.8%	24.5%	13.8%



NO 1388
2009.3.15

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
TEL 548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/